

No. 16 排ガスの量・性状,  
処理水の水量・水施設の根拠書類

排ガスの量・性状、処理水の水量・水質の根拠資料

● 排ガスの量・性状

下記の理由より環境保全上影響のある排ガスが発生しない。

安定型最終処分場	有害物質を含まず分解しない廃棄物を扱うため、メタンなどのガスが発生しない。
木くず破砕施設	破砕処理に伴い発生する粉塵は散水装置により、少量の水を噴霧するとともに、施設自体に集塵装置（サイクロン）を設置し、粉塵の飛散を防止する。

● 処理水の水量・水質

下記の理由より環境保全上影響のある処理水が流出しない。

安定型最終処分場	<p>雨水にさらされても変化せず分解しない廃棄物を扱うため、汚水が発生しない。</p> <p>隣接して稼働中の安定型最終処分場において地下水および浸透水の検査を定期的に行い、報告しているが、これまで基準値を超える値を示したことがない。本施設も同様の施設を整備し、同様の維持管理を行うことから、基準値を超える処理水の流出は無い。（次項に既設処分場の浸透水調査結果を添付する。）</p> <p>排水量は下記※により想定した。</p>
木くず破砕施設	破砕施設及び保管施設は建屋内に設置するため、雨水の影響を受けない。破砕処理に伴い発生する粉塵は散水装置により水を噴霧するが、少量のため、溜まって屋外に流出する事はない

※気象庁倉吉観測所の降水量の平均値（1918～2010年）を元に浸透水量を排水量として想定する。ここで排水量は「廃棄物最終処分場整備の計画・設計要領」（平成14年10月(社)全国都市清掃会議）に基づき以下に示す合理式より算定した。

$$Q = 1/1000 \times C \times I \times A$$

Q : 浸透水量 (m<sup>3</sup>/日)

C : 進出係数 (0.69)

I : 降水量 (mm/日) = 1,746mm/年 ÷ 365日  
= 4.78mm/日

A : 埋立面積 = 21,334m<sup>2</sup>

$$Q = 1/1000 \times 0.69 \times 4.78 \text{ mm/日} \times 21,334\text{m}^2$$

$$\approx 70.4\text{m}^3/\text{日}$$

2) 浸透水

既設処分場の浸透水の調査結果は、表 4-5-5～表 4-5-6 に示すとおり、すべて浸透水の基準値を下回っている。

表 4-5-5 浸透水定期水質調査結果 (BOD)

測定月		浸透水
平成28年11月		1.1
平成28年12月		0.7
平成 29 年	1月	2.2
	2月	2.2
	3月	0.8
	4月	<0.9
	5月	0.6
	6月	1.1
	7月	<0.5
	8月	<0.5
	9月	0.7
	10月	1.3
平均		1.1
基準等		20 mg/l ※1

※1 浸透水の基準